

第2節 農山村の歴史的建築

農山村景観の中でも特に集落別の歴史的建造物の分布を視野に入れた調査を実施した。この調査では、大江町中部から西部に位置する農山村域の内、月布川沿いの平坦地農村部集落と、川から枝分かれした沢沿いに分布する山村部集落の中から特徴のある、あるいは分布比率の高い集落を選び、集落内のすべての建築を目視調査し、文化財に準じて地区50年以上を経たと考えられる建造物の所在を確認した。

対象建築物については、集落内での位置プロット、撮影記録、建築の仕様記録を中心に調査することとした。

この調査で選定した集落は、以下の通りである。

中流域農村集落＝塩野平、原、所部、沢口

上流域山村集落＝中沢口、道海、材木、小鉾、黒森、田ノ沢、矢引沢、中ノ畑

以下、各集落の特徴と、対象建築物についての所見を述べる。

01 道海

沢奥に広がる盆地状の平坦地に集まる集落で、斜面地の中腹を一巡する道筋と、枝分かれする道沿いに建物が立地する。平坦地が広く、標高が高いためか、集落は空が広く、開放的な印象が強い。

集落域内の歴史的建造物は25件を数え、総戸数に占める古い建物の比率は極めて高いのが特徴である。

木造住宅がほとんどであるが、特に茅葺きの住宅建築が3件、元茅葺きの鉄板葺き改修例と合わせると6軒と数多く残っており、いにしへの農山村の町並み風景を伝えている。宿泊施設でもある下見板貼り洋風意匠の03など、珍しい建築も観られる。一方で現状では空家も多く、集落の維持という視点では課題も残る。

02 中沢口

沢口から南へ折れ、道海へと向かう途中の山間集落で深い沢を挟んだ両岸に展開している。両岸の山並みが迫っており、中央軸となる道路沿い以外は、急傾斜敷地に建つ建物が多い。

集落域内の歴史的建造物は20件である。

木造住宅建築に加え、祠を含め、神社社殿等の宗教施設建築が目立つ。

軸となる通り沿いには、農家、商家、倉庫などの比較的大型の歴史的建造物が並び、背後に蔵を擁するなどかつての業態や豊かさを伝える。

03 沢口

月布川と並行した幹線道路沿いに展開する集落。道海への分岐点となる町で比較的広い盆地状に展開している。軸道沿いに東西に幅広く集落建築が分布しているが、いずれも月布川の北側である。

集落内の歴史的建造物は23件を数える。

現状茅葺き民家は1件のみであるが、元茅葺きと考えられる棟高の高い寄せ棟、いわゆる兜造状の民家が3棟残っており、木材の豊かさを感じさせる。寺院、神社の他消防器具庫なども古い造りになっている。

04 田ノ沢

柳川の奥に位置する集落で、盆地の傾斜地に囲まれるように広がっている。盆地中心の低地部分を囲むようにして、周りの斜面に建物が分布する独特な配置形態が見られる。

集落域内の歴史的建造物は15件である。

特に住宅系の建築は兜造をはじめとした大型のもの、小屋の類も2階建てのものが目立ち、総じて規模が大きくしっかりとした造りである。



図6-11 歴史的建造物の分布 (01 道海)



図6-12 歴史的建造物の分布 (02 中沢口)

道海の歴史的建造物



中沢口の歴史的建造物



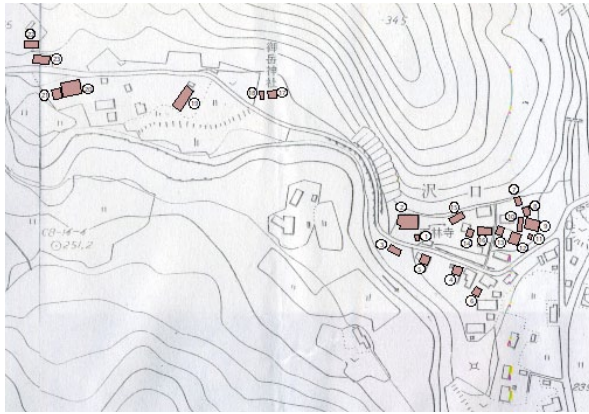


図6-13 歴史的建造物の分布 (03 沢口)



図6-14 歴史的建造物の分布 (04 田ノ沢)

沢口の歴史的建造物



田ノ沢の歴史的建造物



05 矢引沢

田ノ沢のさらに奥に位置する集落で、曲線を描く道路に沿って住宅地が広がっている。傾斜が緩やかで、開放感のある土地柄が特徴である。

集落域内の歴史的建造物は10件。全体数としては少なめであるが、同じ世帯で茅葺きの主屋と小屋2棟の完結した3棟を有する例などもあった。

06 黒森

月布側沿いに展開する集落貫見から北西の山間に位置する集落。集落域内の歴史的建造物は18件。

全体数が多いが、住宅等大型の建造物例は比較的少なく、小屋などの小建築が充実しているのが特徴。とはいえ、蔵造りの仏堂(9)などは特徴的である。屋根形式としては、八幡神社の宝形屋根の1棟をのぞいてすべてが切妻造屋根である。

07 中ノ畑

柳川の北西部、田ノ沢、矢引沢のさらに奥部に位置する集落。市街地への転出により人口も少なくなってしまっているが、歴史的建造物の比率が高い。結果的に移転により古くからの建造物がよく残っている結果となっている。

集落域内の歴史的建造物は12件である。対象建築としては、全般的に神社建築の比率が多い。また、木造住宅建築や小屋などにも古い形式も見られる。

08 小鉾

鉾川の西側の傾斜地に南北に細長く展開する集落。決して広くない領域に田圃も広がる豊かな風景の土地柄である。

集落域内の歴史的建造物は18件を数える。

特に種別で見ると蔵が4件、社殿、仏堂それぞれ2件の比率が高くなっている。

09 材木

月布川の南側、山間部に位置する集落で、周回する道をベースにコンパクトな配置が特徴である。

集落域内の歴史的建造物は28件を数える。

今回調査した集落では面積あたりの分布件数が最も多いだけでなく、総戸数に占める歴史的建造物の割合も高い。特に周回道路沿いを中心に多くの事例が集中しており、町内全域でも有数の高密度集中域といえる。

建造物も、兜造の住宅、蔵、元々旅館の面影を伝える主屋など質の高い建築が集まり魅力ある景観を形成している。ただ、骨組みだけを残した廃屋も見られるなど居住環境としての課題は残る。

10 所部

農山村の中でもやや町場に近い塩野平の台地奥に位置する山間集落で、やはり周回道路を囲む形で建物が配される。

集落域内の歴史的建造物は21件を数え、全体の世帯数に占める対象建築の比率が高い。茅葺き屋根を残す大型農家建築から洋風の物置までバリエーションも豊かである。各建築が近接して建っており、町並み風景として密度の高さが感じられる。

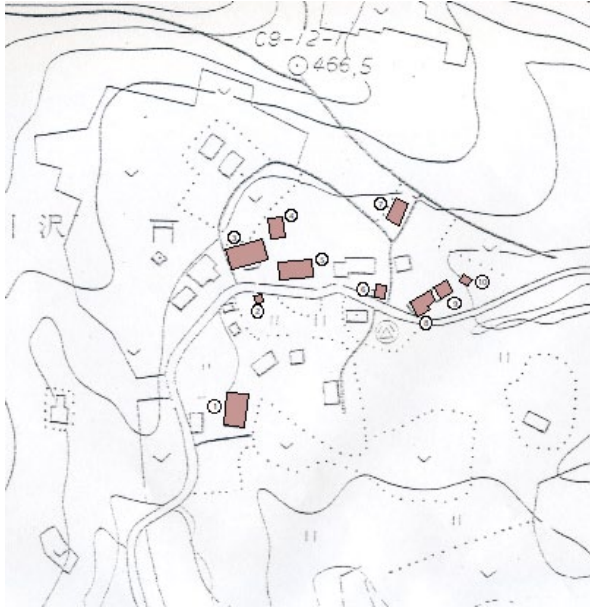


図6-15 歴史的建造物の分布 (05 矢引沢)

矢引沢の歴史的建造物



図6-16 歴史的建造物の分布 (06 黒森)

黒森の歴史的建造物





図 6 - 17 歴史的建造物の分布 (07 中ノ畑)

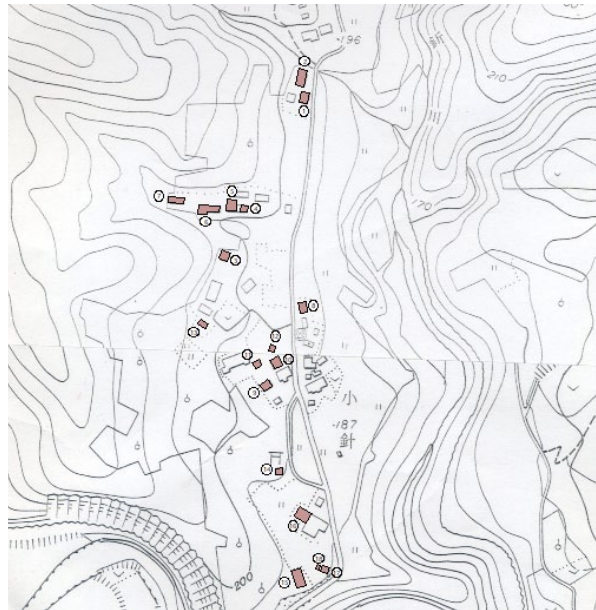


図 6 - 18 歴史的建造物の分布 (08 小新)

中ノ畑の歴史的建造物



小新の歴史的建造物





図6-19 歴史的建造物の分布 (09 材木)



図6-20 歴史的建造物の分布 (10 所部)

材木の歴史的建造物



所部の歴史的建造物



11 原

月布川の南側に広がる高台の平地で、田畑が広がる開放的な集落である。

集落域内の歴史的建造物は 27 件を数える。

田園風景を背景とした大型の農家建築が特に目立つが、新旧農家建築のバリエーションが豊富に残っている。

中には兜造の大屋根を改修して低勾配屋根の平屋住宅にした事例などもあり、時代に併せた改造対応例として興味深い。広大な田畑を前景とした豊かな農村景観が特徴ある地域といえよう。

12 塩野平

その名が示すように、月布川沿いの段丘上の広大な平地帯に位置する集落で、南部では傾斜地までも含めた広範囲の集落である。建築群は、北側、原の東側に続く平地帯と、塩野平橋を渡った南側の傾斜地との二地域に分かれて分布している。

集落域内の歴史的建造物は 33 件を数え、今回調査した集落の中ではもっとも対象建築の件数が多かった。

北側は原地区同様、農家主屋と小屋や蔵など、田園地帯ならではの生業を示す建築種が目立つが、南側の傾斜地では、旅館風の大型建築 (24) や住宅の間に建つ仏堂風 (27)(29) の事例などユニークな建築例も見られた。



図6-21 歴史的建造物の分布 (11 原)

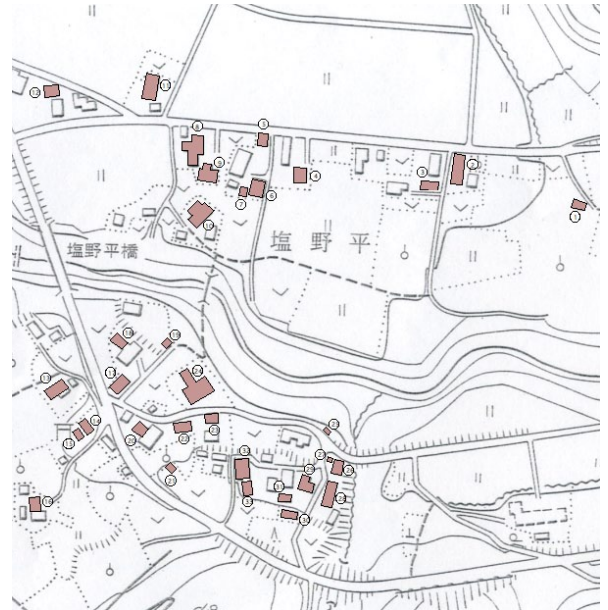


図6-22 歴史的建造物の分布 (12 塩野平)

原の歴史的建造物



塩野平の歴史的建造物



まとめ

総じて農山村集落の建築は、それぞれ集落の骨格となる道沿いに集まるように分布している。主要な道の形態により、線状に分布する例、環状に分布する例、面状に分布する例など、集落の広さだけでなく、背後の山並みまでの距離による盆地や平地の広さ、あるいは集落内の標高差、結果として斜面地の傾斜勾配などにより、その分布や建築種、意匠規模などに違いも見られる。

また、必ずしも生業としての農や信仰にまつわる建築とは限らない地域のコミュニティー（消防、集会所施設）や街道筋の生活を示す（元旅館など）建築もみられ、単純な農村集落では説明できないそれぞれの地区の歴史変遷を示しているように見える。

こと山間部に於いてはどの地区もいわゆる限界集落としての問題を抱える土地であるが、逆に手を加えられることなく旧来の建築が空家であっても残ることとなり、古くからの町並み景観を伝える結果となっている。

農山村集落の建築分布や、技術、意匠については、今後各集落の生業や産業、生活形態の変遷などを調査し、その成立ちや変化要因などについて比較検証する必要があるだろう。